

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表: 令和2年2月18日

アンケート期間: 令和2年 1月 20日～令和2年 1月 31日

事業所名 _____ 保護者等数(児童数) 34 回収数 23 回収率 67 %

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	15	8			定員がいっぱいな時は少々狭いかなと思います。見てないので分からない	衝立を撤去し活動スペースを広くした
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	18	5				児童指導員を多く配置している
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	15	8				可能な限りバリアフリー化を進めている
適切な支援の提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	21	2				主観的にならぬように保護者やスタッフの意見を参考にしている
	5 活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	20	2	1			1週間毎に活動内容を変更していて、固定化しないように会議等で意見交換している
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	6	14	3		必要だとは思わない、学校で関わっているのだからいい	そのような機会がない
保護者への説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	18	4	1			契約時に説明している
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	20	2	1			送迎時や電話などで情報交換を心がけている。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	17	5	1			働いておられる保護者についてはなかなか面談ができず、電話での対応
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	16	7				保護者会は年1回であり、参加者も少なく連携とまでは至っていない
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	19	4				保護者からの苦情が少なく伝え易い雰囲気作りが必要かと懸念している
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	18	5			連絡帳にて欠席の連絡をして了承を得ていたのに迎えに来てもらったことがあった	プール開き等のイベントに参加を呼び掛けて情報交換を図っている
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	21	2				月に1回ではあるが「デイだより」や会報の発行で補っている
14 個人情報に十分注意しているか	20	3			活動予定の「誕生日を祝う」のところに名前が書かれていた	誕生会等の例がないように注意していきたい	
非常時等の対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	19	4			利用日数が少ないので分からない	法人内までで保護者に周知・説明までは至っていない、敷地内で実施
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	20	3				毎月始めに実施している
満足度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	19	4				契約はしているがご利用のないお子さんは楽しめていないと理解している
	18 事業所の支援に満足しているか	19	4				「どちらともいえない」が25%なので更にカリキュラム等支援の在り方について改善いたします
		321	86	7	0		
	2020年のアンケート	77%	21%	2%	0%		回答率が低いので今後上げていきたい
	2019年のアンケート	62%	20%	2%	16%		
	2017年のアンケート	71%	24%	4%	1%		

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和2年 2月 13日

公表:令和2年 2月 18日

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	3		スペースに限りがあり、調整しているが児童10人の場合もう少し広い所で活動したい
	2	職員の配置数は適切である	4	3	2	活動内容に応じて配置している。職員が少ない日も多い、求人募集している
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	1		部屋、トイレに手すりをつけている
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	3	1	事務局会議やデイ会議でヒヤリハット事例として広く参画してくれている
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	1		問題をみつけては、改善に努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	1		前回分と比較すると「はい」が減った。評価が厳しくなったのか、質が下がったのか検討したい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1	4	経費的に第三者による外部評価は行っていない
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	2	1	会議や定例会で研修報告を行っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	1		ニーズや課題を客観的に分析する時、スタッフの意見も参考にしながら計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	3		繰り返し活動して統計的に判断。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	3	1	事務局会議で行っている。事務局職員にまかせっぱなしになっている、「職員の意見を聞くべきである」と不満が出ているので改善したい
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	2		1週間単位でテーマを入れ替えている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	4		土曜日は公園に行くなど時間を決めて支援している
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	7	2		ゲームなどのように活動内容によっては集団活動を重視することがある。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	3		担当が主となりミーティングを行っている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	2		送迎終了後ミーティングを行って問題点等を共有している
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	2		記録を取っているが検証・改善に努力している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	1		誕生日で計画範囲を分散させながら支援計画を練っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4	4		自立支援と創作活動、自立支援と地域支援など重複させて活動するように工夫している。
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	2		会議出席者と他のスタッフとの情報共有が不十分であるので会議で補足説明をしている。	

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	2	2	キャンセルなどで連絡ミスが発生しているので報告・連絡を掲示板等でチェックしている
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	4	2	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、受け入れ体制を整えたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	4		サポートブック等の利用をお願いしているが、現在では個別に聞き取って情報を作成している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	3		保護者とも相談しながら進めたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	4	1	個別指導に留まっていて連携までは達していない
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3	3	町内のまつりの時や公園で見かけるに留まっている
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	5	2	連絡があれば進んで参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	1		送迎時は保護者とのコミュニケーションを大切にしている
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	2	2	相談があれば支援を行っている。ペアトレの勉強から勉強している。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1		契約時を始め、いつでも聞かれれば説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	3		常に傾聴につとめている。すぐには解決できない事例については一緒に考えています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	3		保護者会を開催し話し合いをしている
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	1		相談の申し入れに対しては最優先で対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	1		月1回の会報、デイだより、イベントチラシ配布等はホームページでも発信している
	35	個人情報に十分注意している	8	1		定例会や会議でも注意をよびかけている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	2		送迎時が多いが機会をみては情報伝達に努めている。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	4		ふれあいまつり等で交流する機会を設けている。夏季にプール開放を行っている。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	4		不審者の侵入時の対応を検討したい。それぞれのマニュアルについては継続して整備している。特にインフルエンザ予防対策
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	1		地震・火災時を想定した避難訓練は毎月開催している。広域避難所へは行っていない
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	3	1	研修の機会があれば順番に受講している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	3		契約時には非常時の身体拘束について説明している。主に外出時の交通事故防止のための拘束が多い。
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	4		エピペンを預かりもしもの時のために備えている	

43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	1	定例会でヒヤリハットの発表と再発防止を検討などしている。
----	---------------------------	---	---	------------------------------